

【関係法規・制度】 第 21 期生 1 年次 授業計画

課目名	【関係法規・制度】	時間数	20 時間（2 年間 30 時間）
担当教員	吉村 徹	実施教室	教室 A
授業の目的	目的…美容師の資格・業務に関する法規・制度について知識を習得すること。		
到達目標	目標…公衆衛生を担う美容師の社会的責務、職業倫理を身につける。		
授業概要	・法の形式～ 美容師の開設変更、行政処分・罰金まで扱う。		
授業方法	講義 ・教科書の使用（プリント兼用） ・重要項目のチェック ・問題演習		

授業計画		
時間数	項目	内容
1	法の形式・法の役割	憲法、法律、政令、省令、条例の違いについて理解する
2	衛生法則、行政	衛生法規の分類と美容師法 ・国、地方の行政機関
3	衛生師法 目的・用語	「目的」「理容・美容」「理容師・美容師」「美容所」
4	美容師免許と登録	「美容師養成施設」「試験」「免許申請」「登録」
5～6	4 の確認・美容師の義務	4 の内容のチェックと美容師の業務上の遵守事項、 疾病の感染防止
7	美容師の義務	免許を受けてからの、変更等があったときの手続き
8	業務停止、免許取消	再免許も扱う
9	2 学期期末考査	1～8 の事柄について
10	2 学期期末考査解説	1～8 の事柄について、解説
11	管理美容師	必用な美容所、職務、資格
12	美容所の開設	開設届、検査確認、開設
13	開設者の措置	衛生上講ずべき措置について
14	美容所以外の業務	原則禁止であることを理解した上で、例外を学ぶ
15	立入検査と環境衛生監視員	立入検査の意義と環境衛生監視員に対する接し方を学ぶ
16	違反者等の行政処分	美容所の閉鎖処分
17～18	罰則と復習	罰則、行政処分・司法処分についてチェックする
19	学年末期末考査	11～18 の事柄について
20	学年末期末考査解説	11～18 の事柄についての解説

評価方法・基準	【方法】 評価点の配分（定期考査 80%、平常点 20%）で成績評価を行う。 評価点は 60 点以上/100 点で合格。60 点未満は追試験を行う。 年間の授業必要時間数の 3 分の 1 以上欠席していないことをもって履修とみなす。 【基準】 秀（90 点以上）優（80 点以上）良（70 点以上）可（60 点以上）不可（59 点以下）
教員	担当教員は、法律学に係る学士の学位を有する。

【衛生管理】 第 21 期生 1 年次 授業計画

課目名	【衛生管理】	時間数	50 時間（2 年間 90 時間）
担当教員	大塚 徳人	実施教室	教室 A
授業の目的	目的…美容師として必要な衛生管理の知識の習得。		
到達目標	目標…美容師国家試験の筆記試験にも対応した実力をつける。		
授業概要	衛生管理で学ぶ、公衆衛生、環境衛生、感染症、衛生管理技術等を習。 美容法関係法令等も並行して学ぶ。		
授業方法	講義 教科書に沿った演習問題作成し実施、解説で理解を深める。 衛生管理（日本理容美容教育センター 発行） パワーポイント、ワークブック、プリント		

授業計画		
時間数	項目	内容
1～2	公衆衛生	1 章 公衆衛生の概論 1 節 公衆衛生の意義と課題 2 節 公衆衛生発展の歴史
3～4	公衆衛生	3 節 理容師・美容師と公衆衛生 4 節 保健所と理容師・美容師
5～13	公衆衛生	2 章 保健 1 節 保健
14～21	環境衛生	1 章 環境衛生 1 節 環境衛生の概要 2 節 空気環境 3 節 衣服・住居の衛生 4 節 上・下水道と廃棄物 5 節 衛生害虫とネズミ 6 節 環境保全
22～23	期末考査、期末解説	期末考査 期末解説
24～29	感染症	1 章 感染症の総論 1 節 人と感染症 2 節 病原感染症 3 節 感染症の予防
30～36	感染症	2 章 感染症の各論 1 節 理容・美容と感染症 2 節 主な感染症 3 節 具体的な対策の例

37～38	期末考查、期末解説	期末考查 期末解説
39～40	衛生管理技術	1 章 消毒法総論 1 節 消毒とは 2 節 消毒の意義 3 節 理容・美容の業務と消毒との関係 4 節 消毒法と適用上の注意
41～43	衛生管理技術	2 章 消毒法各論 1 節 理学的消毒法（殺菌法） 2 節 化学的消毒法（殺菌法） 3 節 すぐれた消毒法とその実施上の注意
44～46	衛生管理技術	3 章 消毒法実習 1 節 各種消毒薬 2 節 理容所・美容所の消毒の実際 3 節 理容所・美容所の清潔の実際
47～48	衛生管理の実践例	1 章 理容所及び美容所における衛生管理要領 1 節 第 1 目的～第 4 衛生的取扱い等 2 節 第 5 消毒～第 6 自主的管理 2 章 理容所・美容所の自主管理点検表
49～50	期末考查、期末解説	期末考查 期末解説

評価方法・ 基準	【方法】評価点の配分（定期考查 80%、平常点 20%）で成績評価を行う。 評価点は 60 点以上/100 点で合格。60 点未満は追試験を行う。 年間の授業必要時間数の 3 分の 1 以上欠席していないことをもって履修とみなす。 【基準】秀（90 点以上）優（80 点以上）良（70 点以上）可（60 点以上）不可（59 点以下）
教員	担当教員は、美容師免許取得後、サロンに従事し、厚生労働大臣認定 日本理容美容教育センター主催の教員研修で教員免許を取得。美容師としての実務経験を踏まえ、美容師養成に向けて授業を展開する。

【保健】 第 21 期生 1 年次 授業計画

課目名	【保健】	時間数	50 時間（2 年間 90 時間）
担当教員	土井 文治	実施教室	教室 A
授業の目的 到達目標	目的…理容師・美容師は、頭や顔を中心とする人間の美と健康に携わる保健衛生分野の職業であるので、特に頭頸部の構造や機能について深い知識を持つことが重要である。 目標…美容師国家試験において、筆記課題を学び、合格水準以上の知識を修得することを目標とする。		
授業概要	人体の構造及び機能について、頭頸部を中心に学び、理解を深めて、皮膚とその付属器官について学習をする。人体の構造及び機能として頭部・顔部・頸部の体表解剖学、骨格器系、皮膚科学として皮膚の構造、皮膚付属器官、皮膚の循環器系と神経系、皮膚の生理機能、皮膚と付属器官の保健、皮膚と付属器官の疾患を学習する。		
授業方法	保健科目では、すべて講義形式で授業を実施するが、授業目標の達成を支援する。さらに、2 コマに 1 回の割合で授業理解度を確認する小テストを実施し（成績評価には加味されない）、その結果から各自の復習課題を明確化して、学習内容の定着と学修成果の向上をはかり国家試験取得に繋げていく。 《保健（日本理容美容教育センター発行）、パワーポイント、ワークブック、プリント》		

授業計画		
時間数	項目	内容
1～3	人体の構造及び機能	[第 1 編 人体の構造及び機能] 第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学 第2章 骨格器形
4～6	〃	第 3 章 筋系
7～ 9	〃	第 4 章 神経系
10～12	〃	第 5 章 感覚器系
13～15	〃	第 6 章 血液と免疫系
16～18	〃	第 7 章 循環器系
19～21	〃	第 8 章 呼吸器系
22～23	〃	第 9 章 消化器系

24～26	期末考查、期末解説	期末考查 期末解説
27～29	皮膚科学	[第 2 編 皮膚科学] 第 1 章 皮膚の構造
30～31	”	第 2 章 皮膚附属器官の構造 第 3 章 皮膚の循環器系と神経系
32～37	”	第 4 章 皮膚と皮膚附属器官の生理機能
38～39	期末考查、期末解説	期末考查 期末解説
40～42	皮膚科学	第 5 章 皮膚と皮膚附属器官の保健
43～48	”	第 6 章 皮膚と皮膚附属器官の疾病
49～50	期末考查、期末解説	期末考查 期末解説

評価方法・ 基準	【方法】評価点の配分（定期考查 80%、平常点 20%）で成績評価を行う。 評価点は 60 点以上/100 点で合格。60 点未満は追試験を行う。 年間の授業必要時間数の 3 分の 1 以上欠席していないことをもって履修とみなす。 【基準】秀（90 点以上）優（80 点以上）良（70 点以上）可（60 点以上）不可（59 点以下）
教員	担当教員は、美容師免許取得後、サロンに従事し、厚生労働大臣認定 日本理容美容教育センター主催の教員研修で教員免許を取得。美容師としての実務経験を踏まえ、美容師養成に向けて授業を展開する。

【香粧品化学】第 21 期生 1 年次 授業計画

課目名	【香粧品化学】	時間数	40 時間（2 年間 60 時間）
担当教員	大塚 徳人	実施教室	教室 A
授業の目的 到達目標	目的…美容師として必要な香粧品化学の知識の習得。 目標…美容師国家試験の筆記試験にも対応した実力をつける。		
授業概要	美容業務で使う化粧品、医薬部外品等の薬品の原料、人体に与える影響をしっかりと学び、安心して安全な美容施術が提供できる様になる為に習得する。		
授業方法	講義 教科書に沿った演習問題作成し実施、解説で理解を深める。 香粧品化学（日本理容美容教育センター 発行） パワーポイント、ワークブック、プリント		

授業計画		
時間数	項目	内容
1～2	香粧品概論	1 章 香粧品概論 1 節 香粧品とは 2 節 香粧品と造形
3～4	香粧品概論	3 節 香粧品の効果と使用プロセス 2 章 香粧品を使用する際に気をつけるべきこと 1 節 香粧品の使用による症状
5～7	香粧品概論	2 節 香粧品の定義と法規制 3 節 香粧品の安全性と安定性
8～9	香粧品概論	3 章 香粧品の成り立ち 1 節 香粧品の成り立ち 2 節 水と親水性溶媒
10～12	香粧品概論	3 節 油性原料
13～15	香粧品概論	4 節 界面活性剤
16	香粧品概論	5 節 高分子化合物
17～18	期末考査、期末解説	期末考査 期末解説
19～21	香粧品概論	6 節 色材 7 節 香料 8 節 製品を安定させる配合原料
22～23	香粧品概論	9 節 その他の機能性配合原料 10 節 雑貨原料

24～26	香粧品各論	1 章 スキンケア製品 1 節 香粧品の効果と使用プロセス 2 節 クレンジング用香粧品 3 節 コンディショニング用香粧品 4 節 トリートメント用香粧品
27～30	香粧品各論	2 章 メイクアップ製品 1 節 メイクアップ製品の種類と剤形 2 節 ベースメイクアップ香粧品 3 節 ポイントメイクアップ香粧品 4 節 アイメイクアップ香粧品 5 節 まつ毛ケア製品 6 節 ネイルメイクアップ製品 7 節 ネイルケア製品
30～31	期末考查、期末解説	期末考查 期末解説
32～33	香粧品各論	3 章 ヘアケア、ヘアメイク及びスカルプ製品 1 節 クレンジング用香粧品 2 節 ヘアコンディショニング用香粧品 3 節 ヘアスタイリング料
34～37	香粧品各論	4 節 パーマ剤 5 節 ヘアカラー製品
38	香粧品各論	6 節 スカルプケア製品
39～40	期末考查、期末解説	期末考查 期末解説

評価方法・ 基準	【方法】評価点の配分（定期考查 80%、平常点 20%）で成績評価を行う。 評価点は 60 点以上/100 点で合格。60 点未満は追試験を行う。 年間の授業必要時間数の 3 分の 1 以上欠席していないことをもって履修とみなす。 【基準】秀（90 点以上）優（80 点以上）良（70 点以上）可（60 点以上）不可（59 点以下）
教員	担当教員は、美容師免許取得後、サロンに従事し、厚生労働大臣認定 日本理容美容教育センター主催の教員研修で教員免許を取得。美容師としての実務経験を踏まえ、美容師養成に向けて授業を展開する。

【文化論】 第 21 期生 1 年次 授業計画

課目名	【文化論】	時間数	40 時間 （2 年間 60 時間）
担当教員	木原 佐助	実施教室	教室 A
授業の目的 到達目標	時代背景を読み解くことで、流行のメカニズムを知り、時代を読みデザインを起こす。また、感性を高め、来るべき時代の要請に応えられるデザイナーになる一助とする。		
授業概要	理美容の語義。日本と西欧のファッションを読み解き、来るべき時代のファッションを予想する。		
授業方法	流行の移り変わりの資料作成。その資料に基づく解説指導。		

授業計画		
時間数	項目	内容
1	総論	理容師法、美容師法、理髪業、第一礼装等の解説
2～7	ファッション文化史 〔西欧編〕	古代エジプト～中世ヨーロッパ（髪型・化粧・服装の変遷）
8～13	ファッション文化史 〔西欧編〕	近代 17 世紀～近代 19 世紀（髪型・化粧・服装の変遷）
14～17	ファッション文化史 〔西欧編〕	現代（1910）～現代（1960 年代）、（髪型・化粧・服装の変遷）
18～21	日本の理美容業界の 歴史	髪結床の誕生 女髪結いの誕生 江戸～現在の理美容業の発展
22～29	ファッション文化史 〔日本編〕	縄文～江戸時代（髪・化粧・服装の変遷）
30～37	ファッション文化史 〔日本編〕	明治～昭和 20 年まで（髪・化粧・服装の変遷）
38～40	期末考査	各項目の問題

評価方法・ 基準	【方法】評価点の配分（定期考査 80%、平常点 20%）で成績評価を行う。 評価点は 60 点以上/100 点で合格。60 点未満は追試験を行う。 年間の授業必要時間数の 3 分の 1 以上欠席していないことをもって履修とみなす。 【基準】秀（90 点以上）優（80 点以上）良（70 点以上）可（60 点以上）不可（59 点以下）
教員	担当教員は、美容師免許取得後、サロンに従事し、厚生労働大臣認定 日本理容美容教育センター主催の教員研修で教員免許を取得。美容師としての実務経験を踏まえ、美容師養成に向けて授業を展開する。

【美容技術理論】 第21期生 1年次 授業計画

課目名	【美容技術理論】	時間数	90 時間（2 年間 150 時間）
担当教員	藤澤 里奈	実施教室	教室 A
授業の目的 到達目標	【目的】 道具の名称、使い方を覚える 【目標】 「なぜそうなるのか」を理解でき、実技への筋道を立てる		
授業概要	・技術の習得を容易にする ・理論＝技術を理解する ・基礎から応用へのステップアップにスムーズに導入できるようにする		
授業方法	講義・実技 ・技術理論教科書 1・2 ・実習教科書 1・2 ※項目ごとに確認テストを行う ・パワーポイントを活用し、講義と実践を交えながら進めていく		

授業計画		
時間数	項目	内容
1～7	序章～美容用具	・作業姿勢、美容師とは、授業内容説明 ・美容技術における道具 ・コーム、ブラシ、シザーズ、レザー ・ピン類、ヘアクリップ ・ロッド、ローラー ・電気機器
8～12	4 章 カッティング 教科書：技術理論 1	・シザーズの扱い方（手入れ実践） ・美容刃物 ・正しい姿勢とブロッキング ・ベーシックなカット技法 ・シザーズによるカット技法
13～17	2章 シャンプー 教科書：技術理論 1	・総論 ・サイドシャンプー、バックシャンプー ・リンス、コンディショナー、トリートメント ・スカルプトリートメント、ヘッドスパ ・種類と特徴
18～23	復習とまとめ	・小テスト含む
24、25	期末テスト	・対策 1 時間 ・期末 1 時間、解説 1 時間
26～38	10 章 メイクアップ （実技含む） 教科書：技術理論 2	・導入と展示 ・スキンケア（展示） ・スキンケア（実践） ・パーツ手順（展示） ・パーツ（実践）

39～64	9 章 ネイル (実技含む) 教科書：技術理論 2	・ネイル技術の種類 ・爪の構造 ・ネイル技術と公衆衛生 ・ネイルケア→実践 ・アーティフィシャルネイル
65～69	7 章 カラーリング 教科書：技術理論 1	
70、71	期末考査 期末解説	・メイク、ネイルより出題 ・期末考査解説
72～74	2 学期復習とまとめ	
75～80	5 章 パーマ (実技含む) 教科書：技術理論 1	・歴史 ・パーマ剤の分類 ・縮毛矯正 ・技術（バリエーション）
81～83	3 章 ヘアデザイン	・美容とデザイン ・デザイン画を学ぶ
84、85	期末考査 期末解説	・パーマ、ヘアデザインから出題 ・期末考査解説
86～90	3 学期復習とまとめ	

評価方法・ 基準	【方法】評価点の配分（定期考査 80%、平常点 20%）で成績評価を行う。 評価点は 60 点以上/100 点で合格。60 点未満は追試験を行う。 年間の授業必要時間数の 3 分の 1 以上欠席していないことをもって履修とみなす。 【基準】秀（90 点以上）優（80 点以上）良（70 点以上）可（60 点以上）不可（59 点以下）
実務経験 のある 教員	担当教員は、美容師免許取得後、サロンに従事し、厚生労働大臣認定 日本理容美容教育センター主催の教員研修で教員免許を取得。美容師としての実務経験を踏まえ、美容師養成に向けて授業を展開する。

【運営管理】 第 21 期生 1 年次 授業計画

課目名	【運営管理】	時間数	20 時間（2 年間 30 時間）
担当教員	大塚 徳人	実施教室	教室 A
授業の目的	目的…美容師として必要な運営管理の知識の習得。		
到達目標	目標…美容師国家試の験筆記試験にも対応した実力をつける。		
授業概要	よい美容サービスにより顧客満足を実現することで、店を守り、発展させていくために、顧客や社会のための仕事を担う責任を理解し、より有能な美容師として活躍するために習得する。		
授業方法	講義 教科書に沿った演習問題作成し実施、解説で理解を深める。 運営管理（日本理容美容教育センター 発行） パワーポイント、ワークブック、プリント		

授業計画		
時間数	項目	内容
1～2	経営者の視点	第 1 章 経営とは・経営者とは 第 1 節 経営とは何か 第 2 節 経営の責任 第 3 節 経営の目的 第 4 節 経営戦略① 第 5 節 経営戦略②
3～5		第 2 章 理容業・美容業の経営について 第 1 節 業界の概要 第 2 節 理容業・美容業を取り巻く社会の変化 第 3 節 理容業・美容業における競争 第 4 節 競争の未来図 第 5 節 理容業・美容業の顧客
6～8		第 3 章 資金の管理 第 1 節 資金管理の重要性 第 2 節 収支と損益 第 3 節 会計の考え方 第 4 節 コストを管理する 第 5 節 税金について 第 6 節 税金の申告
9～10	期末考查、期末解説	期末考查 期末解説
11	人という資源 従業員としての視点	第 1 章 人という資源 第 1 節 人という資源とは 第 2 節 人の能力を高める 第 3 節 人をやる気にさせるために

12		第4節 給与 第5節 待遇・福利厚生 第6節 労働者の権利
13～16		第2章 従業員としての視点から 第1節 社会人としての責任・理容業・美容業の従業員としての責任 第2節 社会保険① 公的年金 第3節 社会保険② 医療保険 第4節 社会保険③ 労働保険 第5節 キャリアプランの重要性 第6節 仕事をするうえで考えるべきこと
17～18		第3章 健康・安全な職場環境の実現 第1節 健康管理の基礎 第2節 理容・美容の仕事と健康 第3節 理容業・美容業に特徴的な健康課題 第4節 理容・美容の作業環境に関する健康問題
19～20	期末考査、期末解説	期末考査 期末解説

評価方法・基準	【方法】評価点の配分（定期考査 80%、平常点 20%）で成績評価を行う。 評価点は 60 点以上/100 点で合格。60 点未満は追試験を行う。 年間の授業必要時間数の 3 分の 1 以上欠席していないことをもって履修とみなす。 【基準】秀（90 点以上）優（80 点以上）良（70 点以上）可（60 点以上）不可（59 点以下）
教員	担当教員は、美容師免許取得後、サロンに従事し、厚生労働大臣認定 日本理容美容教育センター主催の教員研修で教員免許を取得。美容師としての実務経験を踏まえ、美容師養成に向けて授業を展開する。

【美容実習】 第 21 期生 1 年次 授業計画

課目名	【美容実習】	時間数	291 時間（2 年間 909 時間）
担当教員	土井・藤澤・大塚・大野	実施教室	教室 A・実習室
授業の目的 到達目標	美容の業務を安全かつ、効果的に実施するための基礎的操作を学び、 個々の要望に対応できるような総合的な技術の基礎を身に付ける。		
授業概要	授業項目、授業時間の詳細は各科目名を参照。		
授業方法	実技・実習・講義 各教科書、テキストそれぞれにあった資料を使用して授業展開する。		

授業計画		
時間数	項目	内容
4 時間	ウェーブ	ウェーブウィッグのパーマ処理
120 時間	国家試験 ワインディング	基礎的操作を学び、全頭の配列を覚え、ワインディングのすべての感覚を身につける
107 時間	シャンプー	基本的な接客、技術、立ち振る舞い等の、技術面と接客面の習得し質の高い技術を自己で考え、工夫・改善できるようになる。
6 時間	特殊技術実習	実技を通して施術体験をすることで、美容技術理論の応用として理解を深める。
54 時間	実務実習	各店舗に実習に行き、出来る範囲の技術や接客を体験させていただく。将来の就職活動に活かす。

評価方法・ 基準	【方法】評価点の配分〔定期考査 70%、平常点 30%〕で成績評価を行う。 評価点は 60 点以上/100 点で合格。60 点未満は補講を行う。 年間の授業必要時間数の 3 分の 1 以上欠席していないことをもって履修とみなす。 【基準】秀（90 点以上）優（80 点以上）良（70 点以上）可（60 点以上）不可（59 点以下）
実務経験 のある 教員	担当教員は、美容師免許取得後、サロンに従事し、厚生労働大臣認定 日本理容美容教育センター主催の教員研修で教員免許を取得。美容師としての実務経験を踏まえ、美容師養成に向けて授業を展開する。

【美容実習】 第21期生 1年次 授業計画

課目名	【美容実習】オールウェーブセッティング	時間数	4 時間（2 年間 74 時間）
担当教員	藤澤・土井	実施教室	実習室
授業の目的	【目的】 自己管理意識・パーマがかかる仕組みを実践で学ぶ		
到達目標	【目標】 国家試験ウィッグの完成		
授業概要			
授業方法	実技 ロッド配置から薬剤塗布までを行う		

授業計画		
時間数	項目	内容
1 ～ 4	ウィッグ作成 パーマ下処理	・パーマ処理 ・1 液、2 液の役割 ・パーマ手順

【美容実習】 第21期生 1年次 授業計画

課目名	【美容実習】 ワインディング	時間数	120 時間（2 年間 198 時間）
担当教員	藤澤・土井	実施教室	教室 A
授業の目的 到達目標	【目的】 国家試験を意識し、上巻き、下巻き、ステムの角度が理解ができる 【目標】 全頭 20 分で巻けるようにする		
授業概要	基礎的操作を学び、全頭の配列を覚え、ワインディングのすべての感覚を身につける		
授業方法	講義・実技 美容師実技試験課題「技術の解説」（日本理容美容教育センター発行）		

授業計画		
時間数	項目	内容
1～2	国家試験について 道具確認と使い方	タイムや、規定での導入 ウィッグの扱い方～道具へ
3～13	上巻き、下巻き センター巻き フロント 5 本 右サイド 左サイド	上巻き、下巻き展示 ⇨ 実践 センター 16 本を巻く センターを巻く ⇨ フロント展示 ⇨ 実践 右サイド展示 ⇨ 実践 左サイド展示 ⇨ 実践
14～39	全頭練習（タイム） ●進行チェック	部分タイム（センター 8 分、右 10 分、左 7 分） 25 分 ※全頭 25 分で巻き終わる ●1 か月 1 回予定
40	1 学期期末考査	オールバックから 25 分
41～75	全頭練習（タイム） ●進行チェック	全頭 20 分で巻く ※速さ+キレイさを求めてトレーニング ●1 か月 1 回予定
76	2 学期期末考査	オールバックから 20 分
77～99	個人練習 ●進行チェック	個人で目標を決め、個別トレーニング ●休み明けテスト実施
100	3 学期期末考査	オールバックから 20 分

【 美容実習 】 第 21 期生 1 年次 授業計画

課目名	【美容実習】シャンプー・ドライ	時間数	107 時間（2 年間 163 時間）
担当教員	土井・大野・大塚・藤澤・渡辺	実施教室	実習室
授業の目的 到達目標	【目的】 シャンプー・ドライの知識と技術の習得。 【目標】 時間、技術・接客の質等が、常に向上しいけるように、自己で考え、工夫・改善出来るようにする。		
授業概要	基本的な接客、技術、立ち振る舞い等の、技術面と接客面の習得し、質の高い技術を自己で考え、工夫・改善できるようになる。		
授業方法	講義・実技 相モデル〔2 名 1 組〕 タイム（シャンプーのみ 15 分、ドライ 10～15 分） OJT（校内訓練） チェック表を使い互いに改善点を評価（技術面・接客面）		

授業計画		
時間数	項目	内容
1～66	シャンプー・ドライ （小テストを含む） ・サイドシャンプー ・バックシャンプー	・理論、目的 ・接客応対 ・シャンプー技術実演（モデルで指導） （フルシャンプー・リンス・マッサージ・ドライ） 手順、注意事項、クロスの付け方・外し方、椅子の倒し方・起こし方、（一連の流れでデモを行う） ・ドライ技術（モデルで指導） 手順、ドライヤーの使い方、注意事項 ・相モデル実践 （シャワーの使い方・プレんリンス、ターバンの仕方） （マッサージ手順・力加減） （プレんリンス、ワンシャン・リンス・ドライ） ※サイドシャンプー合格者から バックシャンプー技術へ進む
67～107	シャンプー・ドライ （小テストを含む）	・タイム意識 35 分→15 分

【美容実習】 第 21 期生 1 年次 授業計画

課目名	【美容実習】特殊技術実習	時間数	6 時間（2 年間 10 時間）
担当教員	土井・大野	実施教室	実習室・ホール
授業の目的	【目的】… 美容の特殊技術について実際に体験をし、学ぶ。		
到達目標	【目標】… 卒業後の視野を広げる。特殊技術を身に付ける。		
授業概要	実技を通して施術体験をすることで、美容技術理論の応用として理解を深める。		
授業方法	実技・演習 サロンの方を講師としてお招きし、施術体験する。 パワーポイント、資料等使用。		

授業計画		
時間数	項目	内容
1～2	ネイル	ネイルケアやアーティフィシャルネイルを学ぶ
3～4	メイク	メイクアップを学ぶ。
5～6	エステ	エステティックを学ぶ。

【美容実習】 第 21 期生 1 年次 授業計画

課目名	【美容実習】実務実習	時間数	54 時間（2 年間 110 時間）
担当教員	土井・大野	実施教室	各店舗
授業の目的 到達目標	【目的】各美容室で実際に、美容の仕事を体験し及び美容室本来の楽しさ、厳しさ等を学ぶ。 【目標】将来の就職活動につながるように準備するため。		
授業概要	各店舗に実習に行き、出来る範囲の技術を体験させていただく。 実際にお客様に接することで、接客面も体験することができる。 将来の就職活動に活かす。		
授業方法	実習 各店舗で体験実習。個人は実務実習日誌、自己評価表。各店舗から実務実習記録。		

授業計画		
時間数	項目	内容
1～18	実務実習（9～10 月）	各店舗 出来る範囲での技術・接客の体験 ・送迎、ご案内、お荷物の返却（返事、挨拶、声出し等） ・準備、片付け（清掃）、ヘルプ、ドリンクサービス ・プレンリンス、ワンシャンプー、リンス ・グレーカラー
19～36	実務実習（11 月）	各店舗 出来る範囲での技術・接客の体験 ・送迎、ご案内、お荷物の返却（返事、挨拶、声出し等） ・準備、片付け（清掃）、ヘルプ、ドリンクサービス、 ・プレンリンス、ワンシャンプー、リンス ・グレーカラー・ファッションカラー
37～54	実務実習（2 月）	各店舗 出来る範囲での技術・接客の体験 ・送迎、ご案内、お荷物の返却（返事、挨拶、声出し等） ・準備、片付け（清掃）、ヘルプ、ドリンクサービス ・プレンリンス、ワンシャンプー、リンス ・カラーシャンプー・グレーカラー・ファッションカラー

【接遇マナー】第21期生1年次授業計画

課目名	【接遇マナー】	時間数	28 時間（2 年間 42 時間）
担当教員	山下 麻由香	実施教室	教室・他
授業の目的 到達目標	社会人として働くこと、学生との違いを理解する。 美容師としての接客応対技術を身に付ける。 日本の文化を理解することで、対応力を向上させる。		
授業概要	社会人として、また接客者としての接遇やマナーについて学ぶ。		
授業方法	講義・演習。穴埋めプリントを配布する。接客業を模擬体験する。		

授業計画		
時間数	項目	内容
1～3	社会人に向けて 職場のマナー1～4	授業の概要と目的を理解する。 職場のマナー1：プロの常識 職場のマナー2：応対・応接 職場のマナー3：身だしなみを整える 職場のマナー4：就業中のマナーと接客のマナー
4～22	接客研修	トキハわさだタウン内で接客体験することで、接客業について総合的に学ぶ。
23	話し方	美しい言葉遣い／会話テクニック
24		
25		
26	接客サービス 1.2	接客の基本はお客様満足／真の接客を目指す
27	接客サービス 3	就業中のマナーと接客時のマナー
28	接客サービス 4.5	好印象を与えるポイント／接客者の言葉遣い

評価方法	期末考査は実施しない。 ただし、授業時間中に一部確認テスト等の提出物あり。 年間の授業必要時間数の3分の1以上欠席していないことをもって履修とみなす。
------	--

【美容経営学】 第 21 期生 1 年次 授業計画

課目名	【美容経営学】	時間数	15 時間（2 年間 30 時間）
担当教員	山下 麻由香	実施教室	教室・ホール
授業の目的 到達目標	美容室や働き方の様々な形態を理解する。 地域の特性を理解する。 美容師として、自身の将来の方向性を思案・決定する。		
授業概要	様々な地域、業態、雇用形態で美容室を運営する経営者から直接話は説明を聞くことで、それぞれの特性等を理解し、将来の方向性を考える。		
授業方法	講義。毎回異なる美容室経営陣を講師として招聘する。		

授業計画		
時間数	項目	内容
1	授業について 美容の職種について	授業の概要と目的を理解する。 美容業界の職種を知る。
2～3	美容経営者講話①	美容室等経営者の講話を聞く。
4～5	美容経営者講話②	美容室等経営者の講話を聞く。
6～7	美容経営者講話③	美容室等経営者の講話を聞く。
8～9	美容経営者講話④	美容室等経営者の講話を聞く。
10～11	美容経営者講話⑤	美容室等経営者の講話を聞く。
12～13	美容経営者講話⑥	美容室等経営者の講話を聞く。
14～15	美容経営者講話⑦	美容室等経営者の講話を聞く。

評価方法	期末考査は実施しない。 ただし、毎時間講話後に振り返りシートを記入・提出する。 年間の授業必要時間数の 3 分の 1 以上欠席していないことをもって履修とみなす。
------	--

【美容総合技術】 第 21 期生 1 年次 授業計画

課目名	【美容総合技術】	時間数	時間 394 時間（2 年間 545 時間）
担当教員	大塚・藤澤・土井・大野・外部講師	実施教室	教室 A・実習室
授業の目的 到達目標	必修課目において習得した基本的技術をもとに、さらに発展させた高度な技術を身につける。また、美容デザインや業界の最新動向についても学ぶ。		
授業概要	授業項目、授業時間の詳細は各科目名を参照。		
授業方法	実技・実習・講義 各教科書、テキストそれぞれにあった資料を使用して授業展開する。		

授業計画		
時間数	項目	内容
159 時間	基礎カット	基本のカット 4 種類の切り方を展開図などを通して学ぶ。 スライス、シザーの扱いなど基本的な動作を繰り返し行う
21 時間	パーマ	縮毛アイロン…アイロン操作を学ぶ ミックス巻き…いろいろな巻き方を学ぶ
28 時間	基礎ブロー	基本的なブラシの使い方を学ぶ
36 時間	スタイリング・セット	コテ、アップスタイル、セットなど
69 時間	基礎カラー	グレイ・ファッション・マニキュア塗布の方法を学ぶ
7 時間	アンビサロン	ウィッグを使用した実践実習（アシスタント業務の習得）
26 時間	トレーニング （AMBI 杯）	技術と接客を学ぶ。 個人目標設定。
36 時間	トレーニング （AMBI 祭）	自分たちで考え、工夫し、感受性を磨く
12 時間	業界実習	様々な業態、職場の方から直接お話を聞き、体験することで 視野を広げる。

評価方法	定期考査は実施しない。 年間の授業必要時間数の 3 分の 1 以上欠席していないことをもって履修とみなす。
教員	担当教員は、美容師免許取得後、サロンに従事し、厚生労働大臣認定 日本理容美容教育センター主催の教員研修で教員免許を取得。美容師としての実務経験を踏まえ、美容師養成に向けて授業を展開する。

【美容総合技術】 第 21 期生 1 年次 授業計画

課目名	【美容総合】カット（ベーシック）	時間数	159 時間（2 年間 159 時間）
担当教員	大塚 徳人	実施教室	教室 A・実習室
授業の目的 到達目標	目的…必要なカット（ベーシック）の知識と技術の習得。 目標…カットの基本を理解し、正確にカットできることで、デザイン性、表現力と再現性を学ばせる。		
授業概要	基本的なことを（シザーズ・コームなどの）習得。 各スタイル事の理論、手順、注意点などの習得。 正確にカットできるパネルの引き出し、姿勢、切り方等の習得。 自分で考える創造力の習得。		
授業方法	講義・実技 OJT（校内訓練）、各スタイル（ワンレン、グラデーション、レイヤー、セიმ） 教科書（美容実習）、展開図とベーシックカット		

授業計画		
時間数	項目	内容
1～15	ベーシック	カット理論、シザーズの扱い方・シザーズの開閉 姿勢・立ち位置、パネルの取り方・引く出し方、 切り方の姿勢、ウィッグの取り扱い、道具の扱い方
16～27	ワンレングスカット	カットの理論、（ウィッグでデモ） カット展開図 カット手順（セクショニングとパネルの引き出す角度） タイム 25～30 分 ・ウィッグ
28～39	ワンレングスカット	タイム 20～25 分 ・ウィッグ
40～50	ワンレングスカット	タイム 20 分 ・ウィッグ
51	ワンレングスカット （チェック）	タイム 20 分以内 ・ウィッグ ・左右対称・切り残し無・指定の長さ ・ウィッグ扱い・シザーの使い方、開閉 ・手順を覚えているかなど
52～63	レイヤーカット	カットの理論、（ウィッグでデモ） カット展開図 カット手順（セクショニングとパネルの引き出す角度） タイム 25～30 分 ・ウィッグ
63～75	レイヤーカット	タイム 20～25 分 ・ウィッグ
76～85	レイヤーカット	タイム 20 分 ・ウィッグ

87	レイヤーカット (チェック)	タイム 20 分以内 ・ウィッグ ・左右対称・切り残し無・グラの幅、高さ ・ウィッグ扱い・シザーの使い方、開閉 ・手順を覚えているかなど
88～99	グラデーションカット	カットの理論、(ウィッグでデモ) カット展開図 カット手順 (セクショニングとパネルの引き出す角度) タイム 25～30 分・ウィッグ・ウィッグ
100～111	グラデーションカット	タイム 20～25 分・ウィッグ
112～122	グラデーションカット	タイム 20 分 ・ウィッグ
123	グラデーションカット (チェック)	タイム 20 分以内 ・ウィッグ ・左右対称・切り残し無・レイヤーの幅、高さ ・ウィッグ扱い・シザーの使い方、開閉 ・手順を覚えているかなど
124～135	セイムカット	カットの理論、(ウィッグでデモ) カット展開図 カット手順 (セクショニングとパネルの引き出す角度) タイム 25～30 分 ・ウィッグ
136～147	セイムカット	タイム 20～25 分 ・ウィッグ
148～158	セイムカット	タイム 20 分 ・ウィッグ
159	セイムカット (チェック)	タイム 20 分以内 ・ウィッグ ・左右対称・切り残し無・レイヤーの幅、高さ ・ウィッグ扱い・シザーの使い方、開閉 ・手順を覚えているかなど

【美容総合技術】 第 21 期生 1 年次 授業計画

課目名	【美容総合技術】 パーマ	時間数	21 時間（2 年間 40 時間）
担当教員	・大塚 ・外部講師（渡辺）	実施教室	教室 A・実習室
授業の目的	目的…サロン技術の基礎を学び、徹底的に身につけさせる。		
到達目標	目標…基礎を身につけ、サロンワークで即戦力になり得る人材育成。		
授業概要	サロンワークに必要な道具を使いこなせるように、丁寧に指導していく。 ・1 年次ストレートアイロン ・2 年次ミックス巻き		
授業方法	講義・実技（ラミル・ビーマニュアル） 実際に道具を使い、手技の講義及び実技を行う。		

授業計画		
時間数	項目	内容
1～3	道具確認 ストレート アイロン	道具の確認と記名（ラミル） ストレートアイロンの説明。 ストレートアイロンでの実技
4～6	ストレート アイロン	ストレートアイロンでの実技 ドライ→ストレート
7～9	ストレート アイロン	ストレートアイロンでの実技 ドライ→ストレート タイム計測 35 分
10～12	ストレート アイロン	ストレートアイロンでの実技 ウェット→ドライ→ストレート タイム計測 45 分
13～15	ストレート アイロン	ストレートアイロンでの実技 ウェット→ドライ→ストレート タイム計測 40 分
16～18	ストレート アイロン	ストレートアイロンでの実技 ウェット→ドライ→ストレート タイム計測 35 分
19～21	ストレート アイロン	小テスト（ラミル） ウェット～ストレート タイム計測 35 分

【美容総合技術】 第 21 期生 1 年次 授業計画

課目名	【美容総合技術】ブロー	時間数	28 時間（2 年間 28 時間）
担当教員	大塚・外部講師（渡辺）	実施教室	教室 A ・実習室
授業の目的	目的…サロン技術の基礎を学び、徹底的に身につけさせる。		
到達目標	目標…基礎を身につけ、サロンワークで即戦力になり得る人材育成。		
授業概要	サロンワークに必要な道具を使いこなせるように、丁寧に指導していく。		
授業方法	講義・実技（ラミル・ビー マニュアル） 実際に道具を使い、手技の講義及び実技を行う。		

授業計画		
時間数	項目	内容
1～2	ワンレングスブロー	ブラシの使い方・ブロードライの練習（ラミル）
3～4		デンマンブラシを使つてのブロー
5～8		デンマンブラシを使つてのブロー仕上げ タイム計測 25 分
9～10	レイヤーブロー	ブラシの使い方・ブロードライの練習
11～18		デンマンブラシを使つてのブロー仕上げ（ラミル 11～12） ロールブラシの使い方
19～26		デンマンブラシを使つてのブロー仕上げ ロールブラシ使つてのブロー仕上げ タイム計測 35 分
27～28		デンマンブラシを使つてのブロー仕上げ ロールブラシ使つてのブロー仕上げ タイム計測 25 分

【美容総合技術】 第 21 期生 1 年次 授業計画

課目名	【美容総合】スタイリング・セット	時間数	36 時間（2 年間 36 時間）
担当教員	外部講師	実施教室	教室 A・実習室
授業の目的	目的…サロン技術の基礎を学び、徹底的に身につけさせる。		
到達目標	目標…基礎を身につけ、サロンワークで即戦力になり得る人材育成。		
授業概要	サロンワークに必要な道具を使いこなせるように、丁寧に指導していく。		
授業方法	講義・実技（アイロン、コテ、セット）（各講師 9 時間スタイル 4 パターン） 実際に道具を使い、手技の講義及び実技を行う。		

授業計画		
時間数	項目	内容
1～3	セット ①	ストレートアイロン・コテなどを使用しスタイリング ウィッグロング 2 台
4～6		
7～9		
10～36	セット ②～④	全 4 名の外部講師による授業展開

【美容総合技術】 第 21 期生 1 年次 授業計画

課目名	【美容総合技術】 カラー	時間数	69 時間（2 年間 69 時間）
担当教員	大塚・外部講師（渡辺）	実施教室	教室
授業の目的	目的…施術内容に応じたカラー技術の習得。		
到達目標	目標…目的に合ったカラーを提供するために、考えながら施術を行う。		
授業概要	理論を十分に理解し、タイムカウントをしながら、技術の向上を目指す。		
授業方法	実技（ラミル・ビーマニュアル） 理論は技術理論内容も含め進行していく。 ウィッグ、トレーニングクリーム・カラー剤を用いての実技指導。		

授業計画		
時間数	項目	内容
1～3	カラー基礎 グレーカラー	基礎理論・道具の説明 グレーカラー理論・ワンメイク塗布実習
4～9	↓	ワンメイク塗布実習
10～11		リタッチ塗布実習 タイム計測 25～20 分
12～23		リタッチ塗布実習 タイム計測 20 分
24～25		リタッチ 技術小テスト タイム計測 20 分
26～28	ファッションカラー	ファッションカラーの理論 2 タッチ塗布実習
29～40	↓	2 タッチ塗布実習 タイム計測 25 分
40～46		2 タッチ・リタッチ塗布実習 タイム計測 25～20 分
47～52		2 タッチ・リタッチ塗布実習 タイム計測 20 分
53～54		2 タッチ 技術小テスト タイム計測 20 分
55～57	マニキュア	マニキュアの理論 マニキュア塗布実習
58～63	↓	マニキュアの理論・塗布実習 タイム計測 30～25 分
64～69		マニキュア 技術小テスト タイム計測 25 分

【美容総合技術】 第 21 期生 1 年次 授業計画

課目名	【美容総合技術】 アンビサロン	時間数	7 時間 (2 年間 7 0 時間)
担当教員	外部講師 (渡辺)・大塚・大野	実施教室	実習室
授業の目的	【目的】 …アシスタント業務の習得 (実務実習までに)		
到達目標	【目標】 …スーパーアシスタントの育成		
授業概要	ウィッグ・相モデルなどを使用した実践実習 (アシスタント業務の習得)		
授業方法	実習・実技 ウィッグによるアシスタント業務の実践 ヘルプトレーニング		

授業計画		
時間数	項目	内容
1～7	第 1 回目	・ アシスタント業務 (ヘルプのやり方) ・ 掃除 ・ ウィッグでの実践 ・ シャンプートレーニングとご案内 ・ 言葉遣い ・ 受付業務全般

【美容総合技術】第21期生 1年次 授業計画

課目名	【美容総合技術】AMBI杯、祭	時間数	62時間（2年間131時間）
担当教員	土井・大野	実施教室	教室・実習室・ホール
授業の目的 到達目標	【目的】 お客様を笑顔にするための接客／AMBI杯では上位入賞を目指す 【目標】 お客様を常に意識した練習／個人目標達成		
授業概要	技術と接客を学ぶ、個人目標設定、自分たちで考え、工夫し、感受性を磨く		
授業方法	実習・実技 ・実技指導（展示⇔実践） ・AMBI祭では企画から運営までチームで考えていく		

授業計画		
時間数	項目	内容
1～2	A M B I 杯	デザイン調整（デザインは展開図まで記入）夏休み宿題
3～8		カット（Y J 10）カット
9～19		カラーリング（カラー剤は個人教材から使用）
21～23		メイク（マニキュア貸し出し、飾りは個人負担）
24～26		通し練習
1	A M B I 祭	説明
2～14		イベントトレーニング（ネイル、アレンジ）
15～22		ファッションショートトレーニング（チームごと）
23～33		準備 ※2年生との兼ね合いもあるので変更もある
34～36	A M B I 祭	来年度の話し合い ・内容、チーム、時間など

【美容総合技術】 第 21 期生 1 年次 授業計画

課目名	【美容総合技術】業界実習	時間数	12 時間（2 年間 12 時間）
担当教員	土井・大野	実施教室	各実習施設
授業の目的	目的…様々な美容に関連する職業を学ぶ。		
到達目標	目標…職場体験を通し、将来の方向性を決める。視野を広げる。		
授業概要	様々な業態、職場の方から直接お話を聞き、体験することで視野を広げる。		
授業方法	実習・講義 実際のサロンでの職場体験実習		

授業計画		
時間数	項目	内容
1～3	ブライダル	ブライダルの職場体験を行う
4～6	福祉美容	福祉美容の職場体験を行う
7～9	美容ディーラー	美容ディーラーの職場体験を行う
10～12	写真館	写真館の職場体験を行う